

みたか子どもサミット

～三鷹子ども憲章をつくるための子どもミーティング（第3回）～<要旨>

日 時 平成19年6月20日（水）午後3時15分～5時
場 所 三鷹市役所 市長公室
出席者 市立中学校（7校）代表者 計14人
清原市長、貝ノ瀬教育長
（司会 伊藤企画経営室長）

<議事要旨> この会議録は抄録であり、すべての発言が掲載されているものではありません

【司会】 皆さん、こんにちは。

（一同、「こんにちは」）

放課後の貴重な時間に、「子どもサミット」に参加していただき、ありがとうございます。初めに、貝ノ瀬教育長、ごあいさつをお願いします。

【貝ノ瀬教育長】 皆さん、こんにちは。教育長の貝ノ瀬と申します。よろしくお願ひいたします。

皆さんは今、緊張していらっしゃると思いますけれども、楽しんでください。私は前に第四小学校で校長をしていましたし、その前は学校の第一線の先生をしていました。市長さんも大学の先生でしたので、みんなそういう教える立場にいましたから、同じ仲間だと思って楽しんでお話し合いをしてほしいと思います。

三鷹市では、皆さん方がよりよく、育つように、そして、学校生活や、ふだんの生活も含めて皆さん方にすばらしく成長してもらうために、「子ども憲章」というものを、これからつくろうと考えています。そして、この「子ども憲章」は、三鷹市が子どもにかかわるいろいろな事業などをしていく上でのよりどころや、もとになる考え方となります。

平成6年に、「子どもの権利条約」という条約が、日本の国会で承認されました。「子どもの権利条約」の考え方は、子どもを、大人から保護されるという、ただ守られるというような扱いではなくて、子供も人格のある人間として、主体性を尊重していこうというものです。それだけに、当然のことながら皆さんにも責任を伴って発言をしてもらったり、行動してもらうということになるわけです。子どもの権利条約の精神を生かしながら、この話し合いの中で、ぜひ、皆さんが大人から守られるだけの存在だという立場での意見ではなくて、立派な一人の人間として発言をしてほしいと思っています。

主に学校でいろいろ話し合いをしてきて、まとまった考え方の意見を出すということに

なると思いますけれども、自分自身の感じているところ、思うところを、遠慮なくこの場で発言してほしいと思っています。ぜひ、いい話し合いの時間にしたいと思っていますので、よろしくお願いします。

【司会】 それでは、出席者の自己紹介をお願いします。

【Aさん】 市立□中学校のAです。よろしくお願いします。

【Bさん】 市立□中学校のBです。よろしくお願いします。

【Cさん】 市立□中学校のCです。よろしくお願いします。

【Dさん】 市立□中学校のDです。よろしくお願いします。

【Eさん】 市立□中学校のEです。よろしくお願いします。

【Fさん】 市立□中学校のFです。よろしくお願いします。

【Gさん】 市立□中学校のGです。よろしくお願いします。

【Hさん】 市立□中学校のHです。よろしくお願いします。

【Iさん】 市立□中学校のIです。よろしくお願いします。

【Jさん】 市立□中学校のJです。よろしくお願いします。

【Kさん】 市立□中学校のKです。よろしくお願いします。

【Lさん】 市立□中学校のLです。よろしくお願いします。

【Mさん】 市立□中学校のNです。よろしくお願いします。

【Nさん】 市立□中学校のNです。よろしくお願いします。

【司会】 それでは、ここからは進行を、清原市長にお願いいたします。

【清原市長】 皆さん、こんにちは。今日は、皆さんに2つのテーマでお呼びかけをしました。1つ目は、「自分たちが成長していくうえで、大人に大切にしたいこと」、そして2つ目は、「自分たちが大切にしなければならないこと」です。

前半は、まず、「自分たちが成長していくうえで、大人に大切にしたいこと」について、それぞれ意見や考え方を交換させていただき、次に、「自分たちが大切にしなければならないこと」について、意見交換をしていきたいと思います。

最初は1のテーマで、「自分たちが成長していくうえで、大人に大切にしたいこと」です。14人の皆さんから最初にそれぞれ発表してもらえればと思います。では、Aさんからお願いします。

【Aさん】 アンケートでの結果では、もっと子どもとコミュニケーションをとってほしいという意見がありました。また、子どもの意見をもっと尊重してほしいという意見も

あり、自分たちのことをもっと知ってほしい、自分たちの考えをもっと聞いてほしいという気持ちや、この子はいい子、この子は悪い子という見方をせず、自分たちのよいところを見つけてもらいたいという気持ちを口中生は持っています。そして、自分のことをわかってくれる人がいることが、子どもの自殺などを防ぐことにもつながるのではないかと考えています。

【清原市長】 では、Bさん、お願いします。

【Bさん】 もう一つは、マナーや規則を守ってほしいということです。大人は子どもの手本となるので、マナーや規則をしっかり守ってほしいという意見がとても多かったです。また、マナーや規則を大事にしたり守ったりする大人が増えることは、子どもにもよい影響を与えるだけでなく、ポイ捨てや路上駐車、歩きたばこなどが少なくなれば、三鷹市の環境の改善にもつながると考えています。

【清原市長】 それでは、Cさん、お願いします。

【Cさん】 大人と子どもの交流の場をもっと増やしていくことが大切だという意見があり、話し合いをしたり、大人と子どもの交流の時間をもっと多くすることが大切だと思いました。

【清原市長】 Dさん、どうぞ。

【Dさん】 大人の考えを正しいと決めつけて子どもに押しつけないで、もっと子どもの意見を尊重して話を聞いてほしいという意見がありました。また、もっと自然が豊かで緑が多い三鷹市を目指して、子どものために、環境づくりを頑張してほしいという意見がありました。

【清原市長】 では、Eさん、お願いします。

【Eさん】 子どもの気持ちをわかってほしい、親が子どもの気持ちをもっと聞いてほしい、また、先生のことなんですけれども、授業以外のときでも生徒のことをもっと見てほしいという意見がありました。これについては、いじめなどの問題は先生の目が届かない場所で行われやすいので、休み時間とかそういった授業以外の場所でも先生が常に自分たちを見てほしいという意見がありました。

【清原市長】 Fさんお願いします。

【Fさん】 親が、「自分の意見が一番正しい」というふうに、子どもと接しているので、そういうところを自重し、子どもの気持ちも考えて接してほしいという意見と、親の権利だからといって子どもの自由を縛っているというのもあって、そういうところを大人には

考えてほしいという意見がありました。

【清原市長】 それでは、Gさん、お願いします。

【Gさん】 アンケートをとったので、その結果をもとに話していきたいと思います。まず、子どもが安心して生活できるように、大人にもっとこうしてほしいという意見では、やはり、今まで皆さんがおっしゃったように、子どものことをよく知ってほしい、子どもを大切にしてほしい、子どもの権利を大切にしてほしいという意見や、大人と子どもが理解し合えるように大人から積極的に話しかけてほしいという意見が出ました。これらの意見から、自分なりに悩んでいるときに、親が助けてあげられると、いじめとかも解決されてくるのではないかと考えています。

【清原市長】 Hさん、どうぞ。

【Hさん】 女子にもアンケートをとってまとめた結果、男子と少し違った表現の意見があったので報告します。さっきと同じ項目の答えとして、まず、環境という観点から見たとき、車を減らしてほしいという意見が出ました。また、子どもとのかかわりという観点からは、なるべく子どものそばにいてほしい、甘やかさないでほしい、子どものことを考えてほしい、ふだん見守っていてほしい、あとは、子どもを信じてほしいなどの意見が出ました。やっぱり子どもとのかかわりも大切ですが、あとは、良い環境や緑を増やすということも大切にしてほしいという意見が多かったです。

【清原市長】 それでは、Iさん、お願いします。

【Iさん】 大人が子どもを押さえつけるのではなく、子どもの意見をもっと尊重してほしいです。

【清原市長】 Jさん、どうぞ。

【Jさん】 大人には、大人の気持ちを子どもに押しつけないで、もっと子どもの気持ちを考えてほしいのと、あとは、ごみがよく落ちているのを見るんですけど、それは子どもがポイ捨てをしているのかもしれないけど、大人にもそういう注意をちゃんとしてほしいです。

【清原市長】 では、Kさん、どうぞ。

【Kさん】 僕たちから見て、大人たちは僕たちの先輩です。だから、反抗期とか絶対わかっているはずなんですけど、その考えを尊重してくれないことがよくあります。反抗して意見を言っているだけなのに、「ちょっとそれ違うよ」と言われてしまうと嫌です。あとは、用事で新宿とかに出かけると、人が大勢いて込んでいるのに、たばこを平気で吸

っている人がいます。僕は、絶対にたばこを吸いたくないんですけど、煙を吸ってしまうことがあります。成長していく過程で、それが害になったら嫌だなと思っています。

【清原市長】 ほかの人が吸っているたばこの煙が自分の方に来てしまうことがあるのですね。

【Kさん】 はい。あと、ポイ捨てとかも嫌です。そこをもっときちんとしてほしいと思います。

【清原市長】 では、Lさん、お願いします。

【Lさん】 □中でとったアンケートを報告します。大人にはもっと優しくしてほしい、もっとマナーを守ってほしい、もっと子どもを理解してほしい、もっと命の重さを考えてほしい。これは大人に限らずだと思います。あと、大人はもっと自分の家族を大切にすべきだと思う、大人にはもっと子どもたちのことを信じてほしい、大人には子どものことを考え続けてほしい、大人には子どもの見本になるようにしてほしいという結果が出ました。

【清原市長】 それでは、Mさん、お願いします。

【Mさん】 □中でもアンケートをとったんですけど、大人にもっとしてほしいことは、子どもとの会話を増やして、もっと多く接してほしいということと、礼儀を持って正しく手本になるようにしてほしいということがありました。あと、知らない人とでもあいさつできる和やかな町になるように、大人の人からも、あいさつをもっとしてほしいという意見が出ました。

【清原市長】 それでは、Nさん、お願いします。

【Nさん】 何か大人に言いたいことはありますかというアンケートをとった結果、もっと子どもに厳しくしてほしいということと、もっと子どもについてわかってほしいという答えが多かったです。

【清原市長】 それぞれ簡潔に焦点を絞って問題提起をしてくださったので、これからはそれぞれをもう少し具体的に深めていきたいと思います。

それぞれの学校としての発表には多くの共通点がありましたし、個人として皆さんが提起した内容にも共通点がありました。まず、一番共通していたのが、コミュニケーション、あるいは、交流、かかわり、会話というような言葉で表現されていましたけれども、それぞれ大人と子どもとの関係について、こうしてほしい、こうあってほしいという意見が多く出されました。それから、2つ目には、大人が、子どもの手本や、見本としてのマナーとか、規則を守るということについて期待があらわされましたね。それから、3つ目には、

私たちが暮らしている環境にかかわる緑の問題であるとか、あるいは、安心して生活するというようなことについての意見が出されました。それぞれさらに詳しく掘り下げていけば、さらなる共通点があると思いますが、大きく3つの共通点を出発点にして意見を聞いてみたいと思います。

皆さんが共通に言われたのは、もっと子どものことを知ってほしい、信じてほしい、子どもの意見や気持ちを尊重してほしいという表現で言ってくれたことです。

Eさん、子どもの気持ちを尊重するというのは、具体的には大人にどんな行動をしてもらえれば、子どもとしては尊重してくれているなというふうに感じるができるでしょうか。

【Eさん】 親の意見を子どもに押しつけるだけではなくて、もっと子どもの意見を聞いて、それについて親も考えてもらって、物事を決めてほしいです。

【清原市長】 何となく自分の意見よりも、親がいろいろ言うことのほうが強いような感じがしますか。

【Eさん】 そうですね、縛られているような気がします。

【清原市長】 先ほどKさんも、反抗期は大人も経験しているはずなのというふうに言ってくれたんですけど、確かにそうですね。大人は必ず自分が小さいころに、親とか教師とか先輩とかに反発した経験を持っていると思いますけど、「それなのになぜ」と思うのは、もう少し具体的に言うとどんなときですか。

【Kさん】 親に、勉強しているのに「勉強しなさい」とかよく言われるんですけど、親も絶対、同じ経験をしているはずなんです。それなのに何でそういうことを言うのかなと、そこがちょっと嫌になります。

【清原市長】 今勉強しているのに、勉強しなさいと言われてしまう、そういうところが気になりますか。これは大人といっても、親を対象にして思うことと、先生に対してこうしてほしいと思うことと、親や教師以外の広くあまねく大人に対して求めることとはちょっと違うかもしれないですね。

Aさんも、コミュニケーションが大事だという声が多かったと最初に言ってくれました。大人が子どものことを知るためには、たとえば、もっと知ってほしいとかわかってほしいというときには、どういうふうにしたらわかってもらえると思いますか。

【Aさん】 うちが親子げんかとかをするんですけど、その後ちょっと落ちついて話し合くと、結構お互いの考えがわかったりするんです。親子げんかになる前に、自分の気

持ちをお互いに伝え合うために、親だから正しいと決めつけず、一対一の人として自分の気持ちをぶつけ合って話をする時間をもう少し増やせるといいかなと思います。

【清原市長】 それは小さいときから感じていましたか。あるいは中学生になってから、特にもう少し尊重してほしいという思うようになりましたか。

【Aさん】 最近ですね。今は、話す時間もあまりありません。

【清原市長】 やっぱ話す時間が、だんだん年齢が上がるにつれて少なくなっている感じがするという事なんでしょうね。Dさんは、どうして大人は自分の考えを子どもに押しつけているように、子どもは感じると思いますか。

【Dさん】 まず、親が子どもに「それはだめ」という言い方が、すごく押しつけているような感じがします。自分の心の中では「何でだめなんだろう、いいんじゃないかな」と思っているのに、それを言ってもあまり聞いてくれず、結局親の言いなりになってしまうことがよくあるなと思います。

【清原市長】 つまり、特に親との会話の中では、「勉強しなさい」という、「何かしなさい」という言い方や、逆に、「それはだめよ」という言い方に、勉強以外のことは、いろんなことをしてはいけないと言われていたような、制止されるというか禁止されるというような感じを、多くの皆さんが感じているようですね。

おそらく、親や保護者は心配というのが先に立つんだろうなと思います。何か危険なことを防ぎたいとか、危ないこと、あるいは、何かトラブルというか、そういうものから子どもを守りたいとか、けがをしないでほしいとか、そういう気持ちが先にあると思います。でも、皆さんにとっては、何かが禁止されたり、親の都合とか価値観を押しつけられているような感じがするのかもしれないね。

先ほどHさんの話の中で、子どものそばにもっといてほしい、あるいは、見守ってほしい、信じてほしいという表現が、特に女子に対するアンケートで多かったですね。見守ってほしいとか信じてほしいというのは、例えば、どういう場合にみんなはそれを感じているのでしょうか。

【Hさん】 多分、遊びに行っ少し時間がおくれてしまったとか何かちょっと間違っちゃったことをしたときに、親は理由を聞いたりしないで、すぐその物事に怒ったりするというのがあるからだと思います。

【清原市長】 なるほど。その物事、そのことだけで結論を出してしまっ、その理由とか原因とか背景とかそういうことについて、もう少しゆとりを持って見てほしいという

ことですね。保護者の皆さんに対しての気持ちをまず聞いてみましたけど、Iさんは学校の先生に対して期待すること、こうあってほしいなということは何かありますか。

【Iさん】 もうちょっと生徒の視点から物を見てほしかったり、もっと意見を聞いてほしかったりすることがありました。

【清原市長】 具体的にはどういうケースですか。授業ですか。それとも、クラブ活動とか委員会活動とか、クラスの活動とかいろいろありますけれども。

【Iさん】 委員会活動でも、もうちょっと意見を聞いてほしいというときもあります。

【清原市長】 そういうときは、Iさんたちは、どのようにして対応しますか。

【Iさん】 「もうちょっと聞いてください」と先生に言います。でも、先生は忙しかったりするんで、なかなか聞いてもらえないんです。

【清原市長】 そうですか。Nさんは、子どもの気持ちをもう少し尊重してほしい、わかってほしいというのを、学校で先生に対して感じることはありますか。

【Nさん】 先生にはあまりないです。

【清原市長】 あまりない。そうすると、Nさんが感じるのは一般的な大人に対してですか。それとも、親に感じる人が多いですか。

【Nさん】 親のほうが多いです。

【清原市長】 一番身近な大人って、やっぱり親になりますか。振り返ってみて、小学校時代と中学校時代とで、親子の関係って変化がありましたか。

【Nさん】 中学校になって会話が少なくなったと思います。

【清原市長】 大きな変化ですね。食事は一緒にすることが多いですか。

【Nさん】 あまり一緒には食べないです。

【清原市長】 だんだん自分たちの暮らしのペースになってきているということですね。

Mさんはどうでしょうか。先ほど知らない人同士でもあいさつできるようにとってくれたんですけども、Mさん自身は、親、保護者、教師以外に話をする大人っていますか。

【Mさん】 あまりいません。

【清原市長】 やっぱり身近な大人は、保護者か学校の先生ということになりますかね。保護者と学校の先生以外に、どういう方でもいいんですけど、それ以外で大人との会話とか交流とかコミュニケーションのある人はいますか。Aさんはどういう方がいますか。

【Aさん】 小さいころから行っている近所の八百屋のおじさんとか、クリーニング屋のおじさんとかと結構仲がよかったです。

【清原市長】　　そうですか。今、例を挙げてくれたようなお店の方でもいいんですけど、保護者と教師以外に会話ができる大人はいますか、Kさんはどうですか。

【Kさん】　　僕は、市民交響楽団に入っているんですけど、その人たちと結構しゃべったりしています。

【清原市長】　　なるほど。そういう学校以外の活動を通じて出会った人と、保護者や先生との会話とか、交流等を比べて何か違いはありますか。

【Kさん】　　親より優しく感じます。

【清原市長】　　そうですか。先ほどGさんは、皆さんがコミュニケーションとか交流とか会話と言ってくれた中で、子どもの権利を尊重してほしいと、あるいは相互に理解をすることが重要だとも言ってくれたんですけども、子どもと大人が相互に理解をしながら、子どもの権利を尊重してもらうためには、どのようなことが必要だと考えられますか。

【Gさん】　　例えば親でもいいんですけど、親と子どもでまず会話をするのが大切だと思います。会話をする上で、お互いの意見をそれぞれ片っ端から言っていくのではなく、一步譲ってみて、客観的に見るという、そういう考え方が重要だと思います。

【清原市長】　　つまり、それぞれが自分の意見をただ言い合うのではなくて、それぞれが一步引いて客観的になるということが大人と子どもの会話で求められていることですね。

【Gさん】　　はい。

【清原市長】　　どうしても親は子どもに対して押しつけてくるような感じがするんですけども、その親が子どもの意見を尊重するためには、今、一步下がってと言ってくれました。Iさんはどういうふうに親、あるいは大人がしてくれたら自分が尊重されているというふうに感じる事ができそうですか。

【Iさん】　　やっぱり学校とかの状況も親が把握していなかったりするので、学校での生活面も一度親に見てもらったりしたら、自分たちの気持ちも少しわかってくれるんじゃないかなと思います。

【清原市長】　　つまり、皆さんがいる学校の状況だとか、そういうことについて、やはりもう少し幅広く知ってもらえれば、自分たちの意見とか行動もわかってもらえるかもしれないということですね。

Jさん自身が、例えば今までは大人とのコミュニケーションのことで、どうも大人との対話が少ないからいろいろな問題が、すれ違いみたいなことがあるようですけれども、大人にもこうしてほしいというような提案はありませんか。

【Jさん】 子どもに言わなくていいことまで言わないでほしいです。

【清原市長】 例えば具体的にはどんなことですか。

【Jさん】 お金の問題とかを聞くと、買ってほしいものもあまり言えなくなったり、親にすごい気を使うので、あまりそういう話はしないでほしいと思います。

【清原市長】 社会的な制約や経済的な状況とかも影響があるかもしれないけれども、子どもとしては、もう少し伸び伸びといろいろなことを考えさせてほしいということですね。

【Jさん】 はい。

【清原市長】 Lさんは、先ほど命の重さというのも言葉の中に入れてくれたんですけども、大人とのコミュニケーション、交流の中で、大人にもう少し命を大切にしてほしいなと思ったことがLさん個人としてありましたか。

【Lさん】 ニュースを見ていたりすると、子どもだけじゃなくて大人でも自殺をする人がいます。子どもから見たら、大人は人生の先輩でもあると思うので、今つまずいている人とかも、やっぱり大人になっても苦しいのかなと感じてしまう人がいると思います。

【清原市長】 やっぱりいろいろな困難があったとしても、それを乗り越えていく姿、例えば、自殺なんていう手段を考えるんじゃないで、生き抜いていくというか、そういう姿を見せてほしいという趣旨だったんですね。

Cさんは、会話ということだけでなく、交流の場が大事というふうに表現してくれました。先ほどの話では、何人かは家族、それから教師以外の大人とも出会っているのですが、Cさん自身はあまり大人と交流する場所というのは今まで経験はなかったんですね。

【Cさん】 そうですね、あまりなかったです。

【清原市長】 そうするとなかなか、先ほど音楽をやっているとか、お買い物でお店屋さんとか会うとかということがなければ、大人との出会いというのはないわけですね。では、今日このサミットの中で、3人の自分の担任でも保護者でもない大人と出会うというのは珍しいケースということになりますね。

【Cさん】 はい。珍しいと思います。

【清原市長】 でも、大人と交流する場が欲しいな、必要だなと思ってきているわけよね。それをもう少し説明してもらおうと、どうしてでしょうか。

【Cさん】 友達と公園に行ったりしたときに、ほかの大人の人たちがたまにいるんですけど、その大人の人たちは、中学生が集まっていると、中学生は悪いと決めつけているような感じがして、接することが難しいです。

【清原市長】 つまり、自分たちに対して大人が偏った見方をして決めつけているんじゃないかという気持ちがあるから、自分たちも心をなかなか開けない。だから、こんにちはこの一言もなかなか出にくいということなんですね。

今、いろいろな形で聞きましたけど、保護者であろうと、教師であろうと、それ以外の方であろうと、やはり何となくコミュニケーション、交流、会話、かかわりという機会が、皆さんの中でもっと広がればいいし、相互理解が深まればいいという気持ちが強いということが伝わってきました。それが大人に対してしてほしいことの1番目の共通点ですね。

2番目に、大人がマナーや規則を守ることが全体としての環境の改善にもつながるとBさんが言ってくれたんですけど、具体的には、特に大人に求めているマナーの内容というのはどんなことでしたか。

【Bさん】 学区外から通っていて、電車とバスに毎日乗るんですけど、周りにいる大人が、たばこを吸ってはいけないエリアで吸ってポイ捨てしたり、瓶とか缶を電車に置いていたりとか、そういうのをよく見るんです。そして、それを見ている高校生とかが、いいよ、置いちゃえとか言って置いているのを本当によく見るので、やっぱり大人がやっているのを見てまねしているのかなと思います。

【清原市長】 歩きたばこ、ポイ捨て、空き缶などをそのまま放置しないとか、そういう社会の基本的なことを大人がきちんとしていないと、それが確かに子どもたちに悪影響を及ぼしているということですね。これについては、ほかの人も指摘してくれました。Jさんもそれを指摘してくれたので、何か具体的に目にすることは多いですか。

【Jさん】 はい、そうですね。

【清原市長】 そういつきはどうしますか。

【Jさん】 最近はあまりしませんが、小学生のときは、友達がポイ捨てしたごみを私が持って帰って家で捨てたりしていました。

【清原市長】 大人がそういうことをしているときに注意をするというのは、なかなか難しいですよ。だから、せめて落ちているものを拾ってくれるということになったわけですね。Lさんもマナーの問題を言ってくれたんですけど、共通してポイ捨てとか歩きたばこが目立ちますか。

【Lさん】 歩きたばこが目立ちます。

【清原市長】 Mさんは、先ほど礼儀とかあいさつが大切であると言ってくれましたが、それをもう少し詳しく紹介してもらえますか。

【Mさん】 やっぱり、学校でもあいさつを大切にしようと言われてるんですけど、いざ大人とかに会うと、大人でも全然あいさつができない人がいたりするのが目立ちます。自分がいさつしようとしても向こうが全然返してくれなさそうな感じなので、そういうのを見ると、子どもたちもあいさつする気もなくなっちゃうと思うし、そういうところから、大人もちゃんとやってもらえば、子どもたちも気軽にあいさつができると思います。

【清原市長】 おはようございますとか、こんにちとはとか、そういうあいさつをするように、皆さんは日々学校の中や外でも努力していますか。Nさんは、通学途中にもあいさつをしていますか。

【Nさん】 はい。あいさつします。

【清原市長】 例えばどういう方に対してですか。

【Nさん】 近所の大人の人とか、通りかかった人にも時々あいさつします。

【清原市長】 大人の反応はどうですか。

【Nさん】 たまに返してくれることもありますけど、ほとんどがそのまま素通りです。

【清原市長】 皆さんの中で、通学途中とか、基本的にあいさつを心がけている人はどのぐらいいますか。(多数が手を挙げる。)かなりいますね。Eさん、反応はどうですか。

【Eさん】 近くの地域の人とかは結構返してくれるんですけど、全然知らない通りすがりの人とかはあまり返してくれないです。

【清原市長】 やはり顔と名前が一致していないと反応はないという感じですか。

【Eさん】 顔とか名前まで知らなくても返してくれる人もいれば、返してくれない人も結構いるので、人それぞれだと思います。

【清原市長】 やっぱりなかなか難しいけれど、皆さんはあいさつについては努力をしてくれているということですね。これは安全・安心の観点から言うと、全く知らない人でも、こんにちとは声をかけられると、やっぱりうれしいわけですね。特にこれは、警察関係の方に聞きましたが、犯罪を犯そうとしている、つまり空き巣に入ろうとしているとか、ひったくりをしようとしているとか、そういう人は、こんにちとはあいさつをされると、ふとひるむそうです。この地域はやめておこうかなと思うことは現実にあるんだそうです。だから、声かけというのはコミュニケーションの最初なだけけれども、それ以外の効果もあるようです。

さて、マナーとともに、皆さんは環境整備にそのことがつながると言ってくれました。だから、今言いましたように、防犯や安全・安心にもつながるんでしょうけれども、皆さ

んの中に三鷹の緑を守ることにもつながるとか、全体として子どもたちが成長していく環境をよくすることにも重要性があるんじゃないかという意見がありました。皆さんにとって、三鷹の環境の中で残してほしいものとか、皆さんが今通っている中学校がある地域、環境の中で、これは残してほしい、守ってほしいと強く主張したいというものがありますか。Mさん、どうですか。

【Mさん】 □中は特に、校庭にもすごい木がいっぱいあるし、周りにも畑とかがいっぱいあるので、やっぱりみんなが住みやすいと思うし、これからもそういう環境を壊さないでほしいと思います。

【清原市長】 ほかにどうでしょう。これは守ってほしいということはあるですか。どうぞ、Aさん。

【Aさん】 小学校の通学路の横にキンモクセイがあるんですが、最近では木を切ったり、たばこが落ちてたりして、においが悪くなったことがちょっと悲しいです。

【清原市長】 美しい自然もマナーによってさらに守られるということですね。

それでは、今大きく3つに共通点をまとめてみます。大人にしてほしいことでは、コミュニケーション、交流、会話などをもっともっと充実してほしいということ。そして、そのやりとりの中には子どもの立場や子どもの意見や子どもの気持ちを尊重してほしいということが指摘されました。そして2つ目には、マナーや規則や礼儀を守るということで、より社会の中での大人の振る舞いというものによる子どもへの悪影響を防いでほしいというようなこと。最後には、緑豊かな環境を守ってほしいということでした。

この自分たちが成長していく上で大人に大切にしてほしいことということについて、さらに今までの意見交換以外に、これもつけ加えてほしいというようなことがあれば、どうぞ教えてください。どうぞ、Dさん。

【Dさん】 学校の周りとか、家の周りとかにすごく高いマンションとか、小さな空き地が最近増えているのが気になります。もうちょっと広々とした環境で暮らしたいので、少し考えてほしいなと思っています。

【清原市長】 ほかにいかがですか。Mさん。

【Mさん】 小学校ではよく家庭訪問があると思うんですけど、中学校になるとなくなって、学校側も家庭の様子がわからないと思うので、家庭訪問をして家庭の様子を見ることがもやったほうがいいんじゃないかという意見も出ました。

【清原市長】 なるほどね。先ほどEさんが、学校の先生は教室の中だけではなくて、

ほかのふだんなかなか見ないところを見てほしいと言ってくれましたが、それと連動するかもしれませんね。つまり、子どもたちの居場所は教室の中だけではないし、校庭だけではないし、もっと幅広くいろいろなところにいるわけだから、広い目で見てほしいという意見ですね。ほかに何か追加の意見がある人いますか。どうぞ。

【Aさん】 先生は、忙しくて見られないのはわかるんですけど、けんかの原因もわからずに、パッと見た感じでこっちが悪いと叱ることがあります。まずお互いの言い分を、ちゃんと聞いてほしいなと思います。

【清原市長】 自分たちが成長していく上で大人に大切にしてほしいことというのは、皆さん自身の立場、考え、意見、そうしたものを、ほんとうにありのままに、そのままに、正確に受けとめて、それをできる限り尊重してほしいということで、一面的に考えたり、見るのではない、柔軟さというのを皆さんが願っているということが伝わってきました。

Dさんが言ってくれた、全体としての環境の点については、私も市長になってから建物の高さの規制をしたり、あるいは、ちょっと難しい表現ですが、建物の最低敷地と言うのですが、これ以上細分化しないで、ここまでしか小さくできませんよというのを規定したり、できる限り今言ってくださった空間的なゆとりのあるまちづくりをとということで努力はしているんです。でも、まだそれが不十分な点がありますから、今言ってくれたように、皆さんにとってはまだまだ未来は長く続くわけですから、環境もよりよいものにしていくことを願っているということも確かに受けとめたいと思います。

(休 憩)

【清原市長】 それでは、後半のテーマに入ります。今度は、自分たちが大切にしなければならないことと、皆さんが考えていることについて意見を交換したいと思いますが、Nさんからよろしくお願いします。

【Nさん】 アンケートをとって多かった答えが、将来に向けて何をするかということで、今をどのようにして生きるかみたいなことが多かったです。あとは、自分のいいところとか相手のいいところを見つけて過ごすようにするということが多かったです。

【清原市長】 それでは、Mさん、どうぞ。

【Mさん】 環境について、大人だけに任せるのではなく、子どもたちもできることがたくさんあるので、地球に優しい生活を心がけて、ごみの分別とか簡単なことからでもいいので、今できることをやるという答えがありました。あとは友達関係とかでも、今すぐく中学生は大事な時期で、傷ついたりとか、友達関係が微妙なときだと思うので、やっぱ

りだれにでも平等に優しくしたりとか、相手の気持ちを考えていったほうがいいという答えがありました。

【清原市長】 では、Lさん、お願いします。

【Lさん】 私たち子どもは、陰で支えてくれている人たちの気持ちをちゃんと受けとめることが大切だと思うことと、子ども一人一人が意見を持っているのはいいことだけれど、授業中自分がうるさくして悪かったのに先生のせいにしたりするのとは違うと思うので、そういうことを心がけていかなきゃいけないと思います。

【清原市長】 Kさん、お願いします。

【Kさん】 人は、人との社会で生きているわけです。だから、僕たち人は、周りの人がいなくては成長していかないということ、ここをもっと考えてほしいと思います。

【清原市長】 自分たちの周りの人たちを尊重してほしいということですね。

【Kさん】 一匹オオカミでいる人もいますけど、間違っていると思います。

【清原市長】 それでは、Jさん、どうぞ。

【Jさん】 私は、自分の気持ちを人にちゃんと伝えることがとても大切だと思います。大人も押しつけるところがあるけど、子どもも大人にちゃんと話さないとわかってくれないから、自分の気持ちをまずちゃんと知ってもらいたいという気持ちを持って話せば、多分聞いてくれると思うから、話すべきだと思います。

【清原市長】 はい。Iさん、どうぞ。

【Iさん】 私は命を大切にすることが、当たり前のことかもしれないけど、今の社会にとって一番大切なことだと思います。

【清原市長】 子どもたちも自分の命を、人の命を大切にすることが重要だということですね。はい、Hさん、どうぞ。

【Hさん】 アンケートで「大切にしなければならないこと」というのは、ちょっと直接つながらないかもしれないんですけど、「地域、社会の一員として、今、私にできること」ということをアンケートでとったら、まずボランティアに参加すること、協力すること、節約をすること、勉強をして社会に貢献すること、小さなことでも親切な行為や感謝の行為をするという意見が出ました。

【清原市長】 親切と感謝ですね。では、Gさん、お願いします。

【Gさん】 僕は、自分たちが大切にしなければならないことは、やっぱり友達を大切にしていかなければいけないと思います。これから受験とか、いろいろ悩みごととかもあ

と思うし、そのときにやっぱり友達がいたら支えてもらえると思うし、友達と協力することで、また充実感とかが味わえると思うので大切だと思います。今の社会、いじめとかも多いと思うので、やっぱりいじめをなくしていくということも必要だと思います。いじめを見たら、見て見ぬふりをするのではなく、見かけたら注意したり、注意できなくても、自分は人に優しくしていくということが必要だと思います。

【清原市長】 では、Fさん、どうぞ。

【Fさん】 今回の自分のクラスの現状についてなんですけど、やっぱり友達のことをけなしたりとか、相手が傷つくような言葉を言ったりとか、そういうことが多いので、やっぱり相手の気持ちを考えるということが大切だと思います。そのほかにも、「死ねばいいのに」とか、そういう言葉を簡単に言ったり、乱暴な言葉遣いをしている人がいるので、命を大切にすることというのは大切だと思います。

【清原市長】 はい。Eさん、どうぞ。

【Eさん】 □中では、人と接することについてなんですけれども、一歩引いた位置に立つこと、客観的な目をいつも持つようにする、常に相手の気持ちを考える、自分たちがしたことに対して、相手がどう感じたのかを考えるという意見が出ました。人と接するときに、自分と相手の気持ちを伝えるためには、相手の気持ちを理解しないとコミュニケーションがうまく運んでいかないので、こういうことを言ったら、相手がそれをどう感じるかということまで考えてコミュニケーションをとっていくことが大切だと思います。

【清原市長】 はい。Dさん、どうぞ。

【Dさん】 先ほど、親が自分の意見を聞いてくれないとか、そういうことを言ったけど、やっぱり子どもが聞いてほしいと思っているだけでは親もそういう考え方をしてくれないし、自分から心を開かないとだめなので、あと親はやっぱり自分のことを思って注意してくれているので、感謝の気持ちを忘れないで接していきたいと思います。

□中は、小学生と交流する機会を増やしているんですけど、そこで「児童と生徒の誓い」というのをつくって、友達とより楽しく過ごし、お互いを傷つけないように話し合っているんで、そこを小学生と一緒にもっと伸ばして行って、地域で温かみのあるものにしていったほうがいいと思います。

【清原市長】 はい。では、Cさん、どうぞ。

【Cさん】 □中では、毎週1回あいさつ運動を行っているんですが、中にはあいさつを返してくれない人もいます。大人があいさつを返してくれないということもありますが、

まず自分たちがあいさつをしてコミュニケーションをとることが大切だと思います。

【清原市長】 それでは、Bさん、どうぞ。

【Bさん】 □中生は、自分だけでなく、他人のことも思いやり大切にするというのが大事だと考えていて、相手の立場に立って物事を考えられるようになりたいというふうにかえたり思ったりしている人が多いようです。周囲のことをよく考え、社会の一員だという意識を持って、マナーや規則を大切に、みんなが居心地よく過ごせるような環境をつくれるように心がけていきたいという意見もありました。

【清原市長】 はい。Aさん、どうぞ。

【Aさん】 自己中心になるわけじゃないんですけど、他人だけを思いやっているだけじゃ自分がつぶれちゃうので、自分のことも大切に、自分の個性も大事にして、自分自身のことをよく知り、自分の長所や短所をしっかりと把握して、短所は改善して、自分に自信を持って生きていきたいという意見もありました。親と話す時間を増やせるようにし、親が自分たちを思いやってくれているということも、反抗期でも忘れずに、自分の部屋に閉じこもり切りということがないよう、心がけていきたいと思っています。

【清原市長】 Nさんに始まりAさんに終わったわけですが、Nさん、Aさんが共通して言ってくれたことは、まず自分の人生というものをきちんと考えながら、自分のよいところ、悪いところをしっかりと、まず自分が個性として認識することの大切さという、偶然ですけど意見発表の出発と最後に言ってくれました。

まずは最初に、自分たちが大切にしなければならないことは、「それぞれの人生」、「それぞれの自分」ということなのかなというふうに感じました。それは皆さん、共通していると思うんですけども、自分と友人との関係、親や、自分を支えてくれている人との関係、それから社会との関係という中で、自立した自分というものを置きながら、友人関係も大事だし、いつもいろいろうさいけど見守ってくれている親も大事だし、でも自分が友達や親以外の社会に対して何ができるか、どうするかということについても、自分たちが大切にしなければならないこととして挙げてくれました。

今、皆さんは中学生として将来何をするか、どのように生きていくか、そのために自分は今どう生きるかということ非常に大切にしなければならない時期にあると思うんですけど、自分の個性だとか、自分のいいところとか、悪いところとかいうのを、おぼろげながら皆さんはもうつかめつつありますか、それとも今まだ自分探しの最中でしょうか。自分のことについて、語る人はいますか。Hさん。

【Hさん】 自分のことについて語るというか、悪いところとかは、友達と話しながら、そういうことを一緒にしゃべる友達がいるんです。だから、その子も大体自分と何か似てるという感じで、意見が合ったりするから、それについてその子としゃべったり、自分自身の悩みはその友達と相談したり、たまには親に言ったり、保健の先生が聞いてくれたりして解決します。

【清原市長】 Nさんが最初に、将来何をするかを見据えて今をどのように生きるかが大事だということを話し合ってくれたということなんですけど、やはりそのプロセスには、さっきHさん言ってくれたように、お友達が非常に重要ですか。

【Nさん】 そういうことを話す友達はいたほうが良いと思います。

【清原市長】 でも、それと同時に、もちろん自分でも考えなきゃいけないですよね。そうすると、自分自身というものの個性を見出したり、自分が将来どのようにしたいかということを出発点にするからこそ、多くの方が大切にしたいものに友人関係を挙げてくれたんですね。確かに、私たちは話し合っていると、自分の考えに気づくことがあります。質問されて、初めて自分がこういうことを大事にしていたんだとか、そういうことを感じることでありますよね。

Gさんは、今、いろいろ悩みが増えてくる時期だから、余計に、友達が大事だということを考えてくれたんですけれども、友達を大切にするときには、Gさんとしては、どんなことを心がけていますか。

【Gさん】 僕はサッカーをやっているんですけど、やっぱりサッカー部の仲間なんかとはすごくコミュニケーションをとって、お互いの深い悩みまでも話し合ったりします。ほかのクラスメートとかは一緒に遊ぶとか、そういうことでコミュニケーションをとっています。そして、やっぱりコミュニケーションをとる上では、どんな場合でも相手のことを考えるということが大切だと思います。

【清原市長】 そうですね。これまで運動会や修学旅行があつて、班別の行動をしたということなんですけど、そういう一つのことを学校の勉強以外に一緒にやる過程というのは、皆さんにとっては、それまであんまり知らなかった友達を知ったり、仲よくなかったんだけど、意外と話せるかもしれないと気がつく機会になっていますか。Bさん、どうですか。

【Bさん】 はい。そういう機会になっていると思います。

【清原市長】 何か今までに、そんな経験がありますか。

【Bさん】 体育大会の練習とかも、あんまり積極的じゃないんだろうなと思っていた子が、意外とリーダーシップをとってくれたり、「もっとこうしたほうがいいんじゃない」とか、みんなの前で言ってくれると、みんなも、「あ、そうなんだ」と気づいたりします。だれも意見を言わないというクラスではないので、たくさん意見が出て、それをまとめてやってみるといふ、すごくいい環境になっています。

【清原市長】 皆さんにとっては、一番身近で、立場が同じで、だから友達というのは大事ですが、なかなかうまく友達がつくれぬ人もいるでしょう。なかなかそれがうまくできなくて、ひとりぼっちだったり、あまり自分の考えを言えぬ人もいますよね。そういう人は、個性なんだけど、どちらかといえば、うまく打ち解けなくて浮いてしまうようなことがあるでしょう。その人だつていいところはあるんだけど、Jさんの経験の中で、そういう人はそういう人として尊重して、それとも呼び込んで、巻き込んでやうほうですか。

【Jさん】 巻き込むほうだとは思います。

【清原市長】 巻き込んで、声をかけてみて、結果どうですか。

【Jさん】 やっぱりそのほうが楽しくなると思います。

【清原市長】 なるべくいろんなことを一緒にやる機会を増やしていくということが大切なのですかね。

【Jさん】 はい。そうだと思います。

【清原市長】 次に、Kさんがさっきいろいろ言ってくれたけど、やっぱり親が一番自分たちのことを考えてくれると話してくれて、その親を大切にすることとは、具体的にはどういうことになるのでしょうか。

【Kさん】 結局は、僕たちのために思つて言つてるんだから、ちょっとそれを思つてあげたいなと思つています。

【清原市長】 Lさん、同じように、陰で支えてくれる人を大切にという表現をしてくれましたけど、親以外に陰で支えてくれる人つて、どんな人を思いつきますか。

【Lさん】 学校の先生で、テスト前などに勉強会を開いてくれる先生がいるんです。そういったところで陰ながら応援してくれてるんだなつて思つています。

【清原市長】 それぞれの皆さんが学校生活を充実できるように、学校の先生や保護者の皆さんが応援してくれているんだと、そのことを尊重しようということですね。尊重する、つまり皆さんはもっと話してほしい、自分たちのことを尊重してほしいと、先ほどまでは言つてくれてたんですけど、でもそういう自分たちもやっぱり思つてくれている存在

である親を尊重しなきゃいけないなというふうに思ってくれているわけですね。

3番目に、社会は人とのかかわりでできているんだから、やっぱり自分たちでできることをいろいろやっていくことも大事だと言ってくれました。Fさんは何か具体的に、自分で社会の役に立ったとか、地域のためにやっていると思いつく経験は何かありますか。

【Fさん】 つい最近なんですけど、あしなが学生募金というのに参加しました。

【清原市長】 交通事故に遭った人や、親が何らかの事情で亡くなった方のための募金活動ですね。それはどこでしたんですか。

【Fさん】 駅前です。

【清原市長】 駅前でやってみて、どんな感じでしたか。

【Fさん】 そういう経験をして、優しく声をかけてくれて、募金をしてくれる人もいれば、自分は関係ないと人ごとのように思ってる人とか、いろんな考えを持つ人がいることを知りました。

【清原市長】 Hさんは、ボランティア、協力、あるいは小さいけれども親切なことが大事だと言ってくれましたね。具体的に皆さんと話し合ったときには、どんな行動が自分たちとしてはできることとして挙げられましたか。

【Hさん】 うちの学校でユニセフ募金という活動があるんです。それに参加することでもボランティアに参加することに入るし、親切な行為や感謝の行為というもの、「ありがとう」とすぐに言うことや、普通に一般的なことなんですけど、電車で席を譲ってあげるというもの、その行為に入ると思います。

【清原市長】 つまり自分たちから積極的に社会や地域や人のためになることを、どんなことでもとにかくやってみたらということで、幾つか例が挙がってきたわけですね。Mさんも環境を守っていくために、子どもたちにできることがあると話し合いをしてくれたようなんですけども、もう少し詳しく紹介してくれますか。

【Mさん】 環境に優しくするために、ごみの分別をしたほうがいいとか、そういう考えを大人が出してくれていると思います。それは、子どもにできることを言ってくれていると思うので、できるだけ協力していけたらいいと思っています。

【清原市長】 学校全体で何か具体的に、地域だとか、そういうところへの働きかけとか、中学生としてできることというのを、Mさんの学校でやってることはありますか。

【Mさん】 ごみの分別とか、なるべく上質紙を使わないでわら半紙を使ったり、そういうのが目立つことです。

【清原市長】 中学校として、あるいは中学生として、地域社会とか、社会に向けて心を一つにやっているなんていう例はありますか。□中はどうでしょうか。何か地域とのかかわりで経験したことってありますか。学校の外に出て行って奉仕活動したとか、体験したとかってありますか。

【Jさん】 校外ではないんですけど、校内では募金活動をしています。

【清原市長】 では、□中の皆さんはどうですか。

【Gさん】 先ほども言ったんですけど、□中では学校全体でユニセフ募金に参加して、それで貧しい子どもたちを助けていこうという活動が盛んです。

【清原市長】 はい。□中はいかがですか。

【Eさん】 □中では、緑の募金をしています。あとは地域のボランティアで、玉川上水のごみ拾いに参加したりしています。

【清原市長】 それは、頻度はどのぐらいですか。

【Eさん】 最近になって結構増えてきました。

【清原市長】 □中では何か地域に対して、中学生としてやるということはあるですか。

【Cさん】 あいさつ運動だとか、あと地域清掃といって、地域の周りのところで、中学生は掃除やごみ拾いとかをしています。

【清原市長】 そうですね。私も□中学区で、中学校の3年生が地域清掃をしているという話を聞いたことがありますけれども、それは学校の外の地域に出て行ってやるんですよね。

【Cさん】 はい。そうです。

【清原市長】 □中では、地域とのかかわりで思いつくことは何かありますか。

【Bさん】 緑の羽募金を先週終わって、あとはユニセフ募金をこれから始めます。

【清原市長】 募金活動というのは、皆さんそれなりに各学校で取り組んでいるんですね。それから、職場体験に出ているのは中学3年生ですか。

【貝ノ瀬教育長】 いいえ、2年生です。

【清原市長】 では、職場体験は皆さん経験しましたか、どうでしょう。皆さん全員が経験されましたか。これは皆さんとしては、皆さんの学びの一環というか、まさに地域の職場に出ていくということで、皆さん自身の学びの体験であり、地域に貢献していると思います。受け入れている商店だとか事業者の方に伺いますと、皆さんが職場体験ということで、ほんとうに短い時間だけれども、学校の外に出て、販売員をやってくれたり、清掃

してくれたり、事務をしてくれたり、あるいは福祉の施設で介助をしてくださること自体が、やはり若い世代の皆さんが職場に入ること自体がポジティブな影響力を与えているんです。それは、皆さんが謙虚に自分たちの学び体験として、経験していただくことが大事で、皆さん自身の存在が、あるがままの存在が役に立つということがあるということです。それがまさに教育長がコミュニティ・スクールということで、地域に学校の皆さんがかかわりを持って出ていくということを進めている意義でもあります。

それでは、次に、まず自分たちの人生を大切にということと、それから友人関係や親との関係、それから社会や人との関係の中で、皆さんが大切にしたいことを挙げてくださったのですが、その中で幾つか、私は皆さんからキーワードをもらいました。

Eさんは、先ほど人と接するとき客観的になるということが大事だと話し合ってくれたということでした。そして、それは、大切にしたいことだと言ってくれたぐらいだから、きっと簡単なことじゃないんですね。

【Eさん】 はい。いつも人と話すときには、そのことを心がけて生活するという意味で出た意見なんです。

【清原市長】 つまり自分の考えと相手の考えというのを、両方もう一人の自分が見るということになるわけですね。Dさんも同じようなことを言ってくれましたが、親に対して、子どもから声をかける、それは求めるだけじゃなくて、親の立場になって子どもから問いかける、あるいは小学生と中学生の交流をする中では、小学生の立場に立って交流するということですね。考える、あるいは実践する中で、児童・生徒の交流というんですか、それはやってみてどんな感じでしたか。

【Dさん】 小学生ってこんなふうに考えているんだとわかったり、中学生のものの考え方はしっかりしていてすごいねとか言ってくれたりするのがうれしくて、やっぱり交流は大切だなと思っています。

【清原市長】 皆さん、ちょっと前までは小学生だったわけですね。でも、小学生の気持ちって、中学生になるとだんだん忘れてきてしまって、小学生と出会うことによって、あ、そうか、小学生ってこんなふうに考えるんだと気づいたんですね。

さっきCさんは、あいさつ運動を続けてきて、反応は大人だけじゃなくて自分たちにもないと言っていました。それでも校内であいさつが元気よくされるようにするために、とにかくあいさつを続けていて、効果はどんなふうにあらわれていますか。

【Cさん】 学校全体が結構、頻繁にあいさつをする人もよくいて、先生と廊下で会う

たびに「こんにちは」とか、あいさつをしています。あとは、周りの、地域の人が学校に来たときに、知らない人だけれどもあいさつをしたりということが増えました。

【清原市長】 たまたま地域の方で、自分は知らない人なんだけど、学校に来たらお客様だから、「こんにちは」と声かけられるようになるということですね。

大切にすることは人との関係とか、社会との関係とか、友人関係とかいろいろあるけれども、そういう話をずっとしてきた上で、改めて相手の立場に立って考える、つまり客観性を持つということが小学生のときよりは中学生になってできやすくなったと思います。でももとに戻って、自分がほんとうに何がしたいのかとか、自分は将来どうしたいんだということは、友達との話とか、親との話でだんだん自分の気持ちをはっきりしてくる可能性が高いということだったんですが、Aさんは、個人的には自分を大切に、個性を大切にしていくためには、そういうコミュニケーション以外にどんな努力が必要だと思いますか。

【Aさん】 やっぱり自分のことを客観的に見て、何かがあったときに自分はこういうことが得意なんだとか、そういうことを意識できるようになればいいと思います。

【清原市長】 Iさんは、さきほど命を大切にすべきだと言ってくださいました。自分たちが大切にしなければならないこととして、命についてですが、先ほどLさんが言ってくれたのは、自殺なんていう結論ではなく、生き続ける、困難があっても乗り越えることができる、そういう人間のすばらしさとか、可能性とか、未来とかを、大人に示してほしいということでした。同じように、Iさん自身も子どもとして大切にしたい命のことを言うてくれたんですけれども、それをもっと伝えていきたいですね。何か、Iさんなりに努力していることで、命を大切にというメッセージをもう一度紹介してもらえますか。

【Iさん】 努力というわけじゃないんですけど、友達を失ったときに、大人に悲しい気持ちを言うのではなく、また先生に話し合いなさいと言われたからという訳でもなく、普通にいつもどおりに友達と話しているように、命の大切さについての話をしているときに大事だなと思うときもあります。

【清原市長】 私たちは生きてると、交通事故もあれば、病気もあれば、さまざまなことで思いがけず身近な命が失われることってありますよね。そのときに、それをどう受けとめるか、乗り越えるかというときに、Iさんの場合には、身近にいた人と真剣に話し合う中でそれを乗り越えてくれたんですよね。私たちは、若いと命が永遠にあるように思いますよね。でも、身近に、ふとしたときに失われてしまうこともあります。それが、例えば愛犬であっても、あるいは枯れてしまった花であっても、そういうことにふと気が

つくことがあるでしょう。ですから、それをむしろ若い皆さんが命を大切にと言ってもらうことは、ものすごく強烈なメッセージだと私たち大人は受けとめられるんです。そして、今日は皆さん言い方は違ったんだけど、一人一人の個性とか、人格とか、命とか、立場とか、そういうものを大事にしてほしいということを言葉の端々に示してくれているなと思って受けとめていました。

こういうことを通して、やっぱり大人にしてほしいことと同じように、社会に向けて自分たちができることというのは、やはり貧困あるいは経済的な苦しさ、あるいは社会、地球環境の温暖化防止とか、限られた資源を有効に使うとか、そういう私たちが生かされている地球環境全体、地域社会全体を守るために自分たちも行動を起こそうということです。そして、それは、根源的に人間の命を大切にするという考え方から、何か行動を起こさなきゃということで、無意識に、あるいは先輩から受け継いだものとして、してくれている活動が役に立っているんじゃないかなと思いました。

これまで皆さん、一人一人に言っていただいたことを整理して、幾つかのポイントに絞ったんですけども、前半は自分たちが成長していく上で大人に大切にしてほしいこと、後半は自分たちが大切にしなければならないことについて、14人の中学生の皆さんと話し合ってきました。最後に、1人ずつ今日の話し合いを通して、自分が感じたこと、改めてこれを大切にしたいと思ったこと、あるいはこうしたいなと決意したことなどについて、どういう角度からでもいいので、感想、抱負、決意、そういうものを言ってもらって、今日の話し合いのまとめにしたいと思います。では、Nさんからお願いします。

【Nさん】 いろいろ話し合っ、やっぱりこれからは自分のできることはできるだけ自分でやって、大人もそれなりに子どもに対してよく考えて、優しく接していくということを心がけて生活していけばもっとよくなるんじゃないかなと思っています。

【清原市長】 では、Mさん。どうぞ。

【Mさん】 家でもっと親と話す機会をつくって自分のやりたいことをしっかり親に言って、親の言うこともちゃんと聞いて、それに対しての意見を、ちゃんと自分で言おうと思いました。あとはやっぱり、何でもこういうふうにしたほうがいいのか、こういうふうにしてほしいということばかり言うんじゃなくて、自分から何でも積極的にやって、周りにも影響させていけたらいいと思いました。

【清原市長】 それでは、Lさん。どうぞ。

【Lさん】 話し合いをして思ったことは、やっぱり自分の意見をちゃんと、合ってい

るかわからないけれども、言ったほうがいいんだなと思いました。あと、ちゃんとすべての人やものに感謝をして、見守られているんだなと思い、これから成長していきたいなと思いました。

【清原市長】 Kさん、どうぞ。

【Kさん】 僕たち3年生は受験生という立場で、みんな塾とか行っていると思うんですけど、夏期講習の値段を見たら、8万円ぐらいしたんです。親はこれぐらい高いお金を出して僕たちに勉強をさせてくれるんだなと思って、この話し合いでも親がどれだけ僕たちのことを思っているかがわかってよかったです。

【清原市長】 では、Jさん、どうぞ。

【Jさん】 この話し合いをして、みんなの意見を聞いてみて、やっぱり思っていることは同じようなことで、気持ちをちゃんと自分から話してわかってもらえるような努力をしたり、自分でできることは人にばかり頼ってないでやっていくことも大切だと思うし、あとは大人に守ってもらうことばかりを考えないで、自分で守れる範囲で、自分を大切にしていきたいです。

【清原市長】 それでは、Iさん、どうぞ。

【Iさん】 ここで違う学校の人たちと話し合っ、自分とまた違った意見を聞くことができてよかったです。

【清原市長】 はい。Hさん、どうぞ。

【Hさん】 自分も含めて、14人の意見を聞いたりしていると、今まで自分が考えて思ったこと以外にも、もっといいなと思ったことがいっぱい出たので、それらを参考にし、これから生きていこうかなと思いました。

【清原市長】 Gさん、どうぞ。

【Gさん】 僕はこの会を通じて、身近にいる人、例えば親とか、先生とかだけでなく、自分の周りにいる人全員とコミュニケーションをとっていくことで、相手のことも理解できるし、自分の理解にもつながると思いました。そして、最終的には自分の成長につながっていくと思うので、これからはやっぱり友達とかを大切に成長していきたいです。

【清原市長】 Fさん、どうぞ。

【Fさん】 今日、話し合いの中で、いろいろな意見を聞いて、これからも生活していく上で命を大切にするとか、自分の思っている意見を相手に伝えることも大切だと思ったので、これからの生活で少しずつそれを変えていきたいなと思いました。

【清原市長】 では、Eさん、どうぞ。

【Eさん】 今日の話し合いで相手の気持ちをわかる、考えるということがとても重要だということがわかったので、これからの生活にこのことを生かして、いろいろな人とコミュニケーションをとって生活していきたいと思います。

【清原市長】 それでは、Dさん。

【Dさん】 私は今まで心の中で嫌だなと思っていても、こんなふうによく考えて意見を言ったことはありませんでした。この話し合いでみんなの意見を聞いて新しい考えが増えたので、参加してよかったなと思いました。大人にもやってほしいことはあるけれど、まず先に自分が精いっぱいできることをやろうと思いました。友達や、周りの支えてくれている大人の人たちを大切にしたいなと思いました。

【清原市長】 はい。では、Cさん。

【Cさん】 僕は子どもが思っていることと、大人が思っていることは結構違うけれども、子どもと大人があいさつや、話し合いや、ボランティアを通して、いろいろなコミュニケーションととっていくことはほんとうに大切だと思いました。

【清原市長】 はい。Bさん、どうぞ。

【Bさん】 自分だけが親にちょっと反抗しているのかなと思っていたら、やっぱりみんな同じようなことを思っていて、少し安心したのと同時に、やっぱり親は自分のことを思って言っているということをもう少し考えて、冷静に話をしたいなと思ったのと、□中もあいさつ運動をやっているんですけども、少し不定期で日数も少ないので、他校に負けないようにもう少し日数を増やして活発にしたいなと思いました。

【清原市長】 では、Aさん。

【Aさん】 この話し合いを通じて、やっぱり親と話す時間をなるべく自分もとるようにする。そして、自分のこともわかってもらえるようにして、親とか、周りの人の気持ちができるようになって、他人とか、周りの大人とか、同級生に思いやりを持たりたいなと思いました。

【清原市長】 今日は皆さんに放課後の大変貴重な時間を割いていただきました。私たち、三鷹市の行政を担わせていただいている教育委員会の教育長と、三鷹市役所の市長が代表して参加をさせていただきましたけれども、皆さん自身がこの感想で言っていたことを、大変感謝しています。と言いますのは、私たちは三鷹市の子どもたちが人として、この三鷹という地域でそれぞれの個性を生かして、そして尊重されて、育まれて、そ

それぞれの人生を望ましく生きていただくことを願っています。そして、その皆さんのために私たちがどういうふうにしていけばよいのかということを決める三鷹子ども憲章をつくるに当たって、まさに子どもである当事者の皆さんの声を聞きたい、そして、そのことを大いに反映したいと考えていました。皆さんにとっては、大人である私たちと話し合うという機会をそんなに頻繁に持っているわけではないということも今日の皆さんのやりとりでわかりました。

それにもかかわらず、皆さんは、本当に素直に率直にそれぞれの思いや経験や考えを話してくださいました。その言葉一つ一つに裏打ちされている皆さんの大変大切な日々の出来事や経験や思いをぜひ、私たちも素直に受けとめたいと思います。そして、それをできる限り反映した、これは文章の形になるんですけども、絵でもなく、映像でもなく、まずは文章の形で制定をしたいと思っていますが、言葉を丁寧に選んでいきたいと思っています。この後、案ができましたら、また皆さんから自由に意見をいただくという形になり、広報紙等で公表もしていきます。皆さんがかかわってくださった三鷹子ども憲章になりますので、これからも関心を持ち続けていただければありがたいなと思います。

私も、中学2年生や3年生のときがありました。わからないことや知らないことは多かったと思いますが、しかし、その年齢だから、中学生だから見えていたもの、感じていたものがあります。それはとても、今の私の人生に影響を与えるぐらい重要な意味を持っている事柄でした。皆さんが中学生として限界を感じながら、あるいは壁にぶつかりながら、日々、一生懸命生きているということは、必ず次につながります。苦労こそ、つながるかもしれません。悩みこそ役に立つかもしれません。今日の出会を通して、それぞれの中学校を越えて、新たな出会い、めぐり会いが生まれたらありがたいなと思います。どうぞ、これからの未来に向かって、皆さんが元気で切り開いていってくださいことを心から願っています。長時間、ほんとうにありがとうございました。

(拍手)

【司会】 どうもありがとうございました。